

世界文化遺産登録に向けて

○現地説明会が開催されました

11月25日(日)に鶴子銀山跡(つるしぎんざんあと)に関係する「鶴子鉾山代官屋敷跡遺跡」と「鶴子荒町遺跡」の現地説明会を開催しました。当日は天候もよく、午前・午後の説明会で105人の参加者にお集まりいただき、佐渡市教育委員会が、今年の7月から11月初旬までの約4か月間にわたって行った調査の成果を見ていただきました。なお、ご好評につき、3月にも現地説明会を開催する予定です。

○調査でわかったこと

今回の調査は、2つの遺跡がある山林の下草や竹を伐採して、遺跡の保存状態を確認するもので、発掘調査は行っていませんが、遺跡内から斜



現地説明会の様子

面を平らに造成した平坦面や石垣、井戸跡が発見されました。荒町遺跡は、これまで林道から南側部分のみが遺跡とされてきましたが、今回の調査で林道北側の代官屋敷跡周辺まで広がる遺跡であることが確認されました。また、荒町遺跡で見られるような自然地形を大幅に変えずに不整形の平坦面を造る例は、中世の鉾山集落遺跡に見られる特徴であり、このような形のもものは、山梨県の湯之奥金山や島根県の石見銀山などでも見ることが出来ます。今後、佐渡島内の鉾山に関連する遺跡の調査を進めていくことで、佐渡の鉾山とそれに係る政治機構や鉾山で働いていた人々の集落の様子を明らかにしていくことができると考えています。



鶴子荒町遺跡に残る井戸跡

○「鶴子鉾山代官屋敷跡遺跡」はこんな遺跡

代官屋敷跡は、鶴子銀山跡の南側、標高約115mにある遺跡で、上杉氏の代官がいた陣屋跡と考えられます。北側を除く周囲を沢に囲まれた攻めにくく守りやすい場所にあり、銀を採掘した場所に近く、銀山を統治するためには絶好の場所に立地しています。

代官所が建てられた時期についての正確な記録はありませんが、『佐渡故実略記』に「天正17年(1589)、上杉景勝が外山に陣屋を建てて山口右京を目代として置いた」とあり、「この陣屋は天正17年以前よりあったと言われている」と書かれています。慶長8年(1603)に大久保長安の命令で相川に陣屋(後の佐渡奉行所)が移されるまでの間、佐渡の金銀山を統括するために機能していました。

○「鶴子荒町遺跡」はこんな遺跡



遺跡内に残る巨岩「天狗岩」 山伏の修業場と考えられます

荒町遺跡は、代官屋敷跡の東側にある標高約80mの斜面に立地する、全長約400mの遺跡



鶴子銀山と集落・港を結ぶ鶴子道

です。現在の鶴子集落にあった鉾山集落(鶴子田中遺跡)に対する「新町」が後に「荒町」に転訛したものと考えられる鶴子銀山第二の鉾山集落で、現在も沢根・鶴子集落から荒町遺跡を通り、銀山を結ぶ「鶴子道」が残されています。

集落があった時期について、正確なことはわかっていませんが、これまでに採集された陶磁器類を見ると安土桃山時代〜江戸時代前期頃のものが多いため、「鶴子千軒」と言われる最盛期はこの頃と考えられます。集落は、相川金銀山が繁栄して、人々が相川へ移動したことによって急速に人口が減り、やがて無人の遺跡になったと考えられます。

また、遺跡の中には「天狗岩」と呼ばれる巨岩があり、中世には山伏の修業場があった可能性があります。

◆世界遺産・文化振興課

☎27-4170